

事業名称	地域空き家等循環再生事業
事業主体名	二宮・一色小学校区地域再生協議会（以下、「再生協議会」という）
連携先	二宮町、神奈川県住宅供給公社ほか
対象地域	神奈川県二宮町
事業概要	大都市居住者の二宮町への移住を促進して、空き家の循環再生を図るため公社住宅等を活用した「お試し移住」（ワーケーション）を実施した。
事業の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公社、民間不動産事業者、移住支援サイト運営者、二宮町、先輩移住者や団地商店街のカフェ等の協働事業として「お試し移住」を導入したこと。 ・ 「お試し移住」という新しい移住支援事業分野のノウハウを確立したこと。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 募集サイト ・ 二宮オススメ・マップ（募集サイトにリンク） ・ 宿泊施設の利用マニュアル
成果の公表方法	・ 募集サイトの継続による公表

1. 事業の背景と目的

空き家対策は、空き家を出さずに利活用する方向に所有者を啓発育成する取組と、空き家にかかる移住や住み替えを支援して新たな空き家の継承者を獲得する取組の両方を行う必要がある。

二宮町は箱根や東京・横浜へのアクセスも良く、自然環境や住環境も豊かで住宅価格や家賃水準もミレニアル世代等の移住に適している。しかし、こうした利点が東京・横浜等の大都市居住者にまだ十分に知られていないため、移住を支援して空き家の循環再生を図る必要がある。

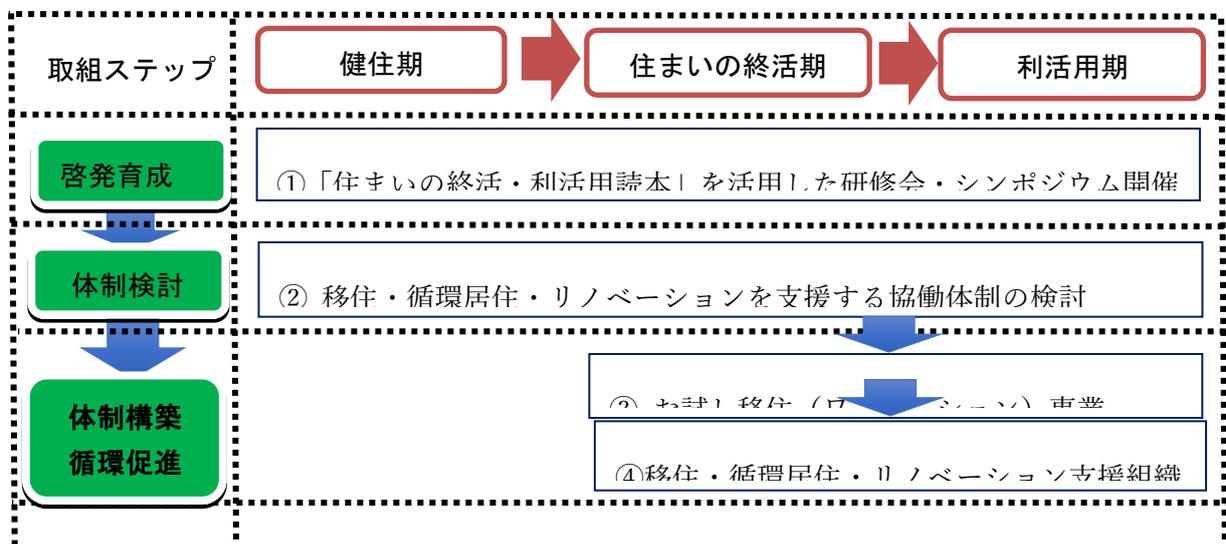
そこで、従来の啓発育成事業に加えて、神奈川県住宅供給公社、二宮町、先輩移住者、移住支援サイト運営者、不動産事業者等と協働して「お試し移住」（ワーケーション）を実施し、お試し移住から公社住宅や戸建空き家への移住を促進する。併せて関係者の協働による実施体制を構築する。

2. 事業の内容

（1）事業の概要と手順

事業は、「啓発育成」「体制検討」「体制構築・循環促進」のステップで取組を発展させる。

図1 空き家を出さないための検討・取り組みフロー図



再生協議会

及び協働事業者による事業の役割分担は下表のとおりであるが、12月

後半以降に予定していた取組は新型コロナの非常事態宣言を受けて実施できなかったものもある。

表1 役割分担表

取組内容	具体的な内容	担当者(組織名)	業務内容
① 研修会・シンポジウム開催	研修会・シンポジウムの企画・交渉	原大祐	「住まいの終活・利活用読本」を増刷し研修会・シンポジウムを開催。
	研修会・シンポジウムの広報	廣上正市	
	研修会・シンポジウムの開催	全員	
② 協働体制の検討	移住支援のための協働体制形成	廣上正市・蔀健夫	お試し移住の実行体制や循環居住の支援体制の検討・構築。
	協働体制の目指す方向性検討	蔀健夫	
	循環居住支援のための協働体制検討	廣上正市・蔀健夫	
③ お試し移住(ワーケーション)の実施	お試し移住(ワーケーション)の企画	蔀健夫・原大祐	お試し移住(ワーケーション)の企画、参加者募集、住宅(宿泊施設)の確保、実施体制の構築、ガイダンスや交流会の開催、参加者アンケートの集計・分析など。
	募集サイト・二宮オススメマップの作成	蔀健夫・原大祐・(株)レッドハウス	
	お試し移住のための住宅の確保・整備	蔀健夫・原大祐・廣上正市ほか	
	ガイダンス・物件案内・交流会の開催	宮坂里沙子・宮戸淳 村田遼介・高見利和	
	お試し移住の実施(2泊3日を4回)	全員	
	参加者アンケートの取りまとめ	廣上正市・蔀健夫	

12月初旬までに予定していた事業は下記の通りのスケジュールで実施した。

表2 進捗状況表

ステップ	取組内容	具体的な内容(小項目)	令和2年度(月)								
			8	9	10	11	12	1	2	3	
啓発 育成	① 研修会・シンポジウム開催	研修会・シンポジウムの企画・交渉								
		研修会・シンポジウムの広報									
		研修会・シンポジウムの開催									
体制 検討	② 協働体制の検討	移住支援のための協力組織形成		————						
		協働体制の目指す方向性検討								
		循環居住支援のための協働体制検討								
体制 構築 循環 促進	③ お試し移住(ワーケーション)の実施	お試し移住(ワーケーション・プラン)の企画		————							
		募集サイト・二宮オススメマップの作成			————						
		お試し移住のための住宅の確保・整備			————						
		ガイダンス・物件案内・交流会の検討			————						
		お試し移住の実施(2泊3日を5回)				————					
		アンケートの取りまとめ						————			

実施済

凡例: ——— 各項目の実施期間

(2) 事業の取組詳細

①研修会・シンポジウムの開催

令和元年度に作成した「住まいの終活・利活用読本」をもとにして、住民等の研修会やシンポジウムの開催を予定していたが、「住まいの終活・利活用読本」の増刷及び一部関係者への配布は行ったものの、新型コロナウイルスの関係で町の集会施設等が使えず、また年明けの1月からは第3波に伴う非常事態宣言も発令されたため、集会を伴う事業は延期せざるを得なかった。

②協働体制の検討

移住支援のための協力組織形成については、お試し移住（ワーケーション）の実施に向けて、個別の会合、あるいはオンライン等による打合せを行い、神奈川県住宅供給公社、二宮町、先輩移住者、移住支援サイト運営者、不動産事業者等との協力体制を構築することができた。

しかし、地元金融機関等を加えた形での循環居住やリノベーションを支援するさらに強力な協働体制の検討については、お試し移住（ワーケーション）を実施後に計画していたため、非常事態宣言発令によって延期せざるを得なくなった。

③お試し移住（ワーケーション）の実施

お試し移住（ワーケーション）の取組の詳細は、お試し移住者の募集、住宅の確保、オススメマップの作成、実施体制構築、ガイダンス、交流会の開催、アンケートの取りまとめなどの細目に分かれる。この順に沿って取組を説明する。

ア お試し移住の募集について

9月初旬からお試し移住の企画に着手し、募集サイトのデザインなどを検討して10月26日から募集を開始した。応募者にはあらかじめ募集条件を提示するとともに、指定の様式に住所、職業、年齢、家族数、参加希望日、移動手段、応募理由などを書いてもらった。

なお、募集サイトについては、地元の不動産事業者や移住支援サイトの運営者などのホームページにリンクを貼ってもらうとともに、ウェブ媒体を使ってメディアへの投げ込みなども行った。

(ア) 募集条件等

- ・期 間 11月20日～22日、11月27日～29日、12月4日～6日、12月11日～13日の金土日の計4回
- ・募 集 各回3組、1組は4人以下（40歳未満のカップルやファミリー優先）
- ・募集条件
 - a 期間中3日間二宮町に滞在できること。
 - b 週に2日以上はテレワークにて働ける方
 - c 日本に在留の方、在留資格をお持ちの方
 - d 企画終了後にアンケートを提出していただける方

(イ) 募集結果及び選定結果

- ・応募者数 単身者5人を含む25組から申し込みがあった。
- ・応募者の住所別の状況
東京23区11組（44%）、東京23区以外5組（20%）、埼玉県3組（12%）、千葉県2組（8%）、神奈川県内4組（16%）と、東京都からの応募が全体の64%とほぼ全体の2/3を占めている。
- ・応募理由（複数回答）
「西湘周辺で探している」13組、「仕事がテレワーク」13組、「子供の教育環境」9組
「自然・アウトドアが好き」7組、「知り合いの紹介」3組となっている。

神奈川県の西湘地域への移住や二拠点居住への希望、自然環境やアウトドア生活への欲求が高い。またファミリー世帯は自然環境等とともに小学校や保育園等の子育て環境への関心が高い。

- ・選定基準 a 40歳未満のカップルやファミリー世帯優先
 - b 移住希望が強いと判断されること
 - c 移住者の知り合いなどから紹介された方

移住を明確に希望しているミレニアル世帯や既に移住されている方からの紹介があった方などを選定させてもらった。

- ・選定結果 4人家族4組、3人家族2組、2人家族5組、単身者1組の合計12組となった。
(なお、開催当日に子供が熱を出して1組はキャンセルとなった)

写真1 募集サイト (<https://ninomiya-workation.com>)



イ 住宅の確保、オススメ・マップの作成、実施体制構築

(ア) 住宅(宿泊施設)の確保

二宮団地の公社住宅から2DKの部屋を提供してもらったが、2戸が限度であったので、民泊事業者から民間賃貸住宅(1DK)を1戸借り上げ、3組のお試し移住が行える宿泊施設を整えた。

民泊用の賃貸住宅については備品等が一式備わっていたが、公社住宅については布団セット等の寝具や自炊対応のための炊飯器、食器、冷蔵庫等、お風呂・トイレの洗剤等も購入し実施日までに部屋に運び入れた。

各種用品が揃った段階で知り合いの友人に事前に泊ってもらって練習を行なったが、お試し移住の参加者が2泊した後の部屋・お風呂・トイレの清掃や使用済みのシーツ、タオルなどの洗濯などをどうするかがかなりの負担になることがわかった。特に、シーツ、毛布の洗濯については、練習ではクリーニングに出したが、かなりのコストがかかることがわかったので、近くのコインランドリーを活用することにした。こうした作業は再生協議会のメンバーが自前で行ったが、毎週の作業はかなりの負担となった。

写真2 提供した公社住宅（2DK）



写真3 借り上げた民間賃貸住宅（1DK）



（イ）二宮オススメ・マップの作成

2泊3日の滞在期間中に二宮を知ってもらうために、何かポイントとなる場所の地図を作成する必要があると考えた。紙媒体にするかウェブ上に作るか検討したが、募集サイトで応募者にも見てもらえるものが良いと考え、リンクを貼る形で作成した。

オススメ・マップはGoogle Map に示したポイントから場所の写真やお店のホームページのURLが表示されるように設定するとともに、さらに先輩移住者12人に二宮の魅力ある場所やお気に入りのお店などを選定してもらい、その写真を取りまとめて添付したものである。

選ばれた場所やお店などの写真の数は28箇所にとぼる。（下記はその中からの抜粋）

写真4 パン屋さん

写真5 雑貨屋さん

写真6 ご飯屋さん

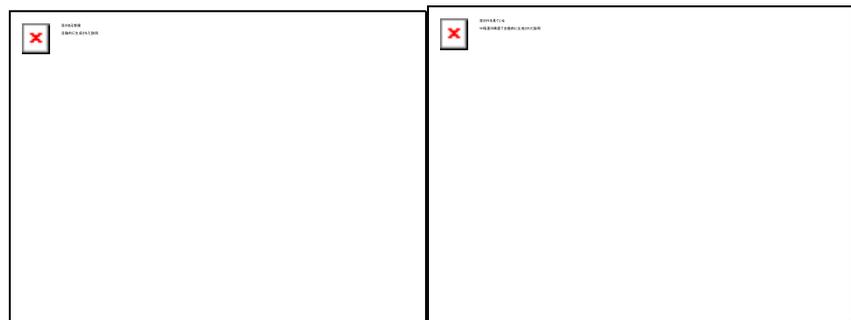
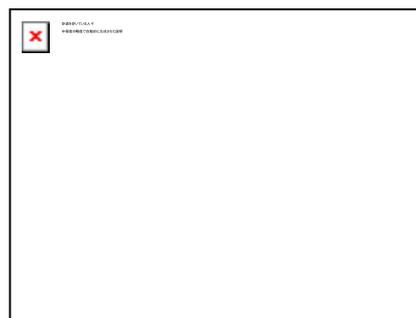
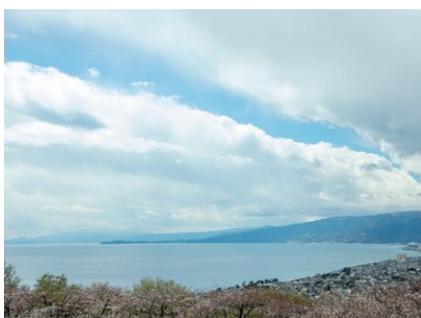


写真7 吾妻山からの風景

写真8 「たびするくま」



（ウ）実施体制の構築

今回のお試し移住の実施体制の構築に当たっては、あらかじめ再生協議会だけでなく、公社、二宮町、地元の不動産事業者や移住支援サイトの運営者、先輩移住者、二宮団地商店街でケーキショップ・カフェを運営する「湘南お菓子部 ICHI」などに声をかけ、協力を要請してきた。

お試し移住の企画がまとまった10月初旬から本格的に関係者との協議に入った。募集サイトのデザインや二宮オススメ・マップの作成については先輩移住者に、ガイダンスや交流会の

開催については公社や「湘南お菓子部 ICHI」に、町案内及び物件案内については地元不動産業者に、それぞれ協力を取り付けることができた。

コロナ禍で様々な制約がある中で、この事業が実現できたのはこれら関係者との協働作業の賜物であり、この成果を通じて協働体制が構築できたことは今後の移住者支援体制の構築の足掛かりになるものと考えている。

ウ ガイダンス・交流会の実施

各2泊3日の初日の13時に、参加者に二宮団地商店街の「湘南お菓子部 ICHI」及び「コミュニティ・ダイニング」に集合してもらいガイダンスを行った。また、2回目の11月20日と4回目の12月13日の日曜日には参加者と先輩移住者との交流会を開催した。その概要は以下のとおりである。

写真9 湘南お菓子部 ICHI



写真10 コミュニナル・ダイニング



(ア) ガイダンスの実施

参加者にはコミュニティ・ダイニング及び湘南お菓子部 ICHI の入り口で検温、手の消毒を行い、また、屋内でも密を避けるためのソーシャル・ディスタンスが取れるテーブル配置を工夫して行った。毎回3組の参加というのはその点でも適切な数であった。

a 宿泊者名簿等の作成

参加者にはまず宿泊者名簿への記入をしてもらった。これは応募の段階では代表者の属性と家族構成しか聞いていなかったなので、家族全員の名前などを確認した。これは新型コロナウイルスへの感染など万一の場合に備えたものである。

b 二宮町の魅力などについての概要説明

ガイダンスの導入として、地元不動産事業者から物件案内や町案内に先立ち二宮の魅力とか家族で楽しめる場所などについてあらかじめ情報を提供することにした。これは地元不動産事業者が物件案内する際にも二宮町の主だった場所は案内しており、その予備知識を持ってもらうためである。

c 提供住宅（宿泊施設）の利用マニュアル等の説明

宿泊施設として提供する公社住宅や民間賃貸住宅の設備や備品などについて、あらかじめ「利用マニュアル」を作成してガイダンスの場で配布するとともに、これを用いて説明を行なった。住宅の鍵はダイヤル錠で管理することにし、参加者ごとに配布したマニュアルにダイヤル錠の番号を記載した。なお、この説明は公社職員が行ったので、公社が二宮団地で進めてきた団地再生の取組の概要も併せて説明した。

d 主催者側と参加者の歓談

ケーキとソフトドリンク等を提供し、説明を補完する意味で歓談の時間を設け、参加者の質問などに個別に対応した。子供連れの家族が多かったので、ガイダンスはコミューナル・ダイニングで行い、その間の子供たちの面倒は「湘南お菓子部 ICHI」の方で見るという場所の役割分担も行った。コロナ禍でソーシャル・ディスタンスを取る必要もあり、狭い会場の場合はこのような2箇所の連携ができたことは効果的であった。

e 物件案内と町案内のスケジュール調整

移住促進を図るために今回の試みとして実施したのが地元不動産事業者による物件案内及び町案内の機会提供である。そのため歓談の時間を利用して参加者の滞在中のスケジュールを個別に確認し、案内の実施日等を家族ごとに設定した。

写真 11 ガイダンスの風景



写真 12 物件案内のスケジュール調整



(ア) 交流会の開催

a 交流会の開催方法

2泊3日の最終日である11月22日と12月13日の日曜日には、参加者や関係者だけでなく先輩移住者も集まって交流会を開催した。交流会は商店街のアーケードにテーブルを並べ、オープンエア方式で実施した。また、この場合も参加者全員に対して、検温、手の消毒を行うとともに、万一来てて参加者全員の名簿を作成した。

参加者は最終日もなるべく現地を見たいという希望があったので、12時から14時までの昼食会とし、地元ベーカリーのパンとソフトドリンクを提供した。この交流会は、新型コロナウイルス発生以降は開催を自粛しているが、二宮団地再編プロジェクト（公社二宮団地の団地再生事業）の当初からコミュニティ育成の目的で「お食事会議」として月1回のペースで移住者や地域の人たちが集まって開催してきたものに倣ったものである。

なお、従来から行なっているお食事会議は食べ物や飲み物を1品持ち寄りで行なってきたが、今回の交流会では新型コロナ対策から1品持ち寄り方式はとっていない。

b 交流会で得られた経験

主催者側にとって、交流会は物件案内とともに今回のお試し移住の目玉事業であり、できれば毎回行いたいものであったが、先輩移住者の負担などを考慮し、月1回の開催ペースを守って行なった。なお、交流会のある回とそうでない回については、募集段階から周知しており、予想どおり交流会のある回の応募者が多かった。

参加者の反応としては、こういう交流会を通じて先輩移住者に様々なことを聞くことができるし、ここで知り合いになることで移住してからもこのコミュニティに参加できるため、全般的に満足してもらえたようである。

また、参加者は子供連れが多かったこと、先輩移住者もファミリーで参加してくれたので、

子供たちがすぐに友達になり、みんなで連れ添って公園で遊ぶなど、主催者側も予想していなかった展開になった。移住者にとって、大人のコミュニティも重要であるが、移住してから学校の友達ができるまではこのような子供たちのコミュニティも不安なく地域に溶け込む意味で重要なものと考えている。

写真 13 団地商店街での交流会の開催風景



写真 14 子供たちが交流する風景



エ アンケートの取りまとめ

募集にあたって、アンケートの提出を求めており、参加 11 組のうち 10 組から回答が得られた。質問項目は、「この企画をどこで知ったか?」「参加して良かった点」「改善してほしい点」「お試し移住を体験し、移住したい気持ちは高まったか?」などである。以下はその主な回答を抜粋要約したものである。

(ア) この企画をどこで知ったか?

この企画の広報については、募集サイトの公開と同時に地元の不動産事業者や移住支援サイトの運営者にリンクを貼ってもらうほか、プレスリリース配信サービスも活用した。この質問はこの企画をどんな媒体で知ったかを確認し、今後の広報計画の参考にするためである。

その結果は次のとおりである。

- ・「地元不動産事業者の HP」4、「知人の紹介」4、「スマホのニュース速報」1、「知人から応募サイトを教えてもらった」1、「Twitter で神奈川の移住サイトを検索して」1、「Google ニュースサイト」1 となっている。
- ・これをみると、地元不動産事業者のサイトや知人の紹介が多いが、プレスリリース配信サービスの利用も一定の効果があったものと思われる。

(イ) 参加して良かった点

この質問は、参加者の感想から良かったと考えている点を聞くことによって、主催者側の企画意図が達成されているのかどうか、また、二宮町のどんなところが気に入ったのか、などを把握して今後の企画に反映するためである。

その結果は次のとおりである。

- ・参加者の感想に共通するのは、実際に来てみてネットの情報ではわからない住民の気風、町の雰囲気、密度感、小山あり海ありの自然環境の豊かさ(小さな伊豆と表現された方もいた)、町のお店の人たち、オリーブ栽培者、先輩移住者など、町民の暮らし方に直に触れることができたことをあげている。
- ・実際に宿泊してみて、地元のスーパーの相場感、新鮮でお手頃な値段の魚屋の存在など、実際に生活する上での必要情報が得られたという感想も多かった。
- ・子供がこの街を受け入れられるかどうか移住を考える際の大きなポイントであるが、同世代の子供たちと触れ合う機会があつて良かったとの感想もあった。

- ・地元不動産事業者による街案内を兼ねた物件案内については、実際に空き物件を見るなどして移住や二拠点居住を検討する良い材料になったとの声も多かった。

(ウ) 改善してほしい点

この質問は、今回主催者側にとっても初めての取組であり、不慣れなところも多かったので、参加者の忌憚のない意見をもらって今後の取組の参考にするためである。

その結果は次のとおりである。

- ・宿泊施設に関して、募集段階から施設マニュアルや備品リストなど、もう少し詳しい情報が欲しかった。それがあると子供連れの場合にあらかじめ持参物などを検討できるという感想があった。
- ・ガイドンスに合わせて最初に町の見所案内をやってもらえればもっと町の様子を知ることができた。
- ・不動産事業者の物件案内で、当日では内覧までできない物件があったのは残念であった。
- ・宿泊施設での自炊に必要な食糧や生活用品の買い物ができる地図が部屋にあると良かった。

(エ) お試し移住を体験し、移住したい気持ちは高まったか？

この質問は、お試し移住という取組が移住支援のために必要な事業となるのかどうかを確認するためであり、また、実際に移住する見込みについて確認する目的で行なった。

結果は、参加者全組が「はい」と答え、これで移住を決めたという組もあった。

(3) 成果

今回の成果物としての募集サイトは今後も活用するため公開したままにしてある。募集サイトや二宮オススメ・マップについては「写真1 募集サイト (<https://ninomiya-workation.com>)」のとおりである。これらの作成にあたっては、先輩移住者のウェブ・デザイナーを活用するほか、写真のモデルも先輩移住者が務めた。

宿泊施設の利用マニュアルについては、下記の通りであるが、今回は募集サイトのデザインやオススメ・マップの作成と並行して提供住宅(宿泊施設)の確保や備品等の整備などを行なっていたため、アンケートの改善点でも指摘されたようにあらかじめ応募者に見せることができなかった。

利用マニュアルの作成と同時に部屋の管理で工夫したのは4桁のダイヤル錠を活用したことである。宿泊者が変わる度に設定番号を変えることができるため便利であった。

二宮団地公社住宅(宿泊施設)利用マニュアル

【部屋番号】

- ・あなたの部屋番号です。(メモ XXXX)

【鍵について】

- ① 4桁のダイヤル錠です。(メモ)
- ② ダイヤル番号はガイドンスの時にお教えします。
- ③ 外出時、チェックアウト時は鍵をかけてください。

【出入り】

- ・玄関にアルコール消毒液がおいてあります。部屋への出入りには手の消毒と手洗いをお願いします。お子様にも徹底してください。

【キッチン関係】

- ① 食器、なべ、ヤカン、フライパンなど基本的なものは4人分揃えています。食器等は使用后、洗って元あった場所に片付けをお願いします。

②炊飯器、冷蔵庫、電気ポットも揃えています。外出の際、冷蔵庫以外は使ったものの電源を切ってください。

③瞬間湯沸かし器の使い方は部屋に説明書を置いてありますのでご覧ください。

【お風呂関係】

①風呂釜の使い方は部屋に説明書をおいてありますので必ずご覧ください。

②洗顔ソープ、ボディソープ、シャンプー、トリートメント等は一通り備えてあります。

③タオルは5セット用意してあります。

2泊の間タオルの交換は致しませんので、有効にお使いください。

【布団関係】

①布団は4セット（シングル）を用意してあります。

②シーツ、布団カバー、枕カバー、毛布もセットにしてありますのでご利用ください。2泊の間のシーツや毛布の交換は致しません。

【ゴミについて】

①ゴミはビニール袋に入れてゴミ箱へ入れてください。ゴミ箱に溢れる場合にはビニール袋に入れてゴミ箱の横などにおいてください。

②ビン、カン、その他不明なものは袋に入れゴミ箱横にまとめておいてください。

【ワーケーション関係】

①ポケット Wi-Fi を1台備えてありますので、宿泊期間中お使いください。

②このポケット Wi-Fi はレンタルしたものです。退出の際には必ず元の場所に戻すのを忘れないようにしてください。

【その他】

・退出の際には部屋に掃除機をかけていただくようにお願いします。

【緊急の連絡先】

①住戸内の設備の不具合や事故の際

管理会社】（一般社）かながわ土地建物保全協会

西湘サービスセンター 電話番号 XXXXXXXXXXX（平日 8:30～19:00）

緊急連絡センター 電話番号 XXXXXXXXXXX（夜間・土・日・祝）

②滞在中の事故などの際

廣上 正市 携帯電話番号 XXXXXXXXXXX

3. 評価と課題

①研修会・シンポジウムの開催

研修会・シンポジウムについては、前述したとおり「住まいの終活・利活用読本」の増刷及び一部配布にとどまった。これは新型コロナウイルスの関係で町の集会施設などが利用できなかったことが大きい。空き家対策に関する啓発育成事業は地道な取組が必要であり、当初 Zoom や YouTube を活用した研修会も検討したが、主な対象者が高齢者であるため現時点では難しいと判断し断念した。集会方式で開催した場合も、過去2年の経験から空き家問題は実際に困ってからでないと関心が低く参加者を集めるのはかなり大変である。令和元年度に調査検討した大阪の枚方信用金庫の「巡リズム事業」のように信用力のある団体等が個別訪問で様々なニーズを汲み上げることの効果は大きいと思われる。

②協働体制の検討

協働体制の構築についても、前述したとおり、移住支援のための協力組織については神奈川県住宅供給公社、二宮町、先輩移住者、移住支援サイト運営者、不動産事業者等との協力体制を構築することができた。しかし、地元金融機関等を加えた形での循環居住やリノベーションを支援するさらに強力な協働体制の検討については、お試し移住（ワーケーション）の実施後に計画していたため、非常事態宣言発令によって延期せざるを得なくなった。

後者の協働態勢については、大阪の平方信用金庫の「巡リズム事業」をモデルに検討しているが、地元の金融機関に枚方信用金庫のような強固な目的意識や組織的取り組みはみられないため、当面は共通の目標を設定して緩やかな連携を図る方針でいきたいと考えている。

また、今回のお試し移住の経験から言えることは、協働体制を組んだ地元の不動産事業者が金融機関ではないが、空き家や中古住宅をリノベーションすることによって移住者等のニーズに応じており、当面は、お試し移住の取組を恒常化させることで町内関係者の協働体制を強化することを考えていきたい。

③お試し移住（ワーケーション）の実施

お試し移住については初めての取組であったが、コロナ禍の中でもなんとかやり抜くことで貴重な経験とノウハウを蓄積できたと考えている。

ア 成果として評価できる点

- ・募集、ガイダンス、物件案内、交流会といったお試し移住の仕組みを構築できたこと。
- ・12組の募集に対して25組と2倍以上の応募が得られたこと。
- ・物件案内、交流会などを通じて移住希望者のニーズに応えることができたこと。
- ・事後のアンケートでも高い評価が得られ、数組の移住が実現する見込みであること。
- ・複数の新聞、SNSにも紹介され、今回の取組を広くPRすることができたこと。

この取組が一応の成果をあげたのは、再生協議会や公社の努力はもとより募集サイトやオススメ・マップの作成を支えてくれた先輩移住者、ガイダンスや交流会などを支えてくれた団地商店街の「湘南お菓子部 ICHI」の運営者、移住促進に熱心に取り組む地元不動産事業者、熱心な移住支援サイトの運営者などとの協働の賜物である。

こうした協働体制を今後も維持し、お試し移住の取組を継続的なものにしていくためには、アンケートでも指摘があった改善点や実施してみて分かった課題に対応することが必要である。

イ 今後の改善点と課題

- ・募集サイトにもう少し宿泊施設の情報（写真だけでなく図面、備品リスト、宿泊施設利用マニュアル等）や滞在期間中の主なスケジュールなどを盛り込む。
- ・宿泊施設利用マニュアルの充実。（近隣のスーパー、コンビニ、薬局等の地図を添付するなど）
- ・ガイダンスのやり方の改善。（現地情報の充実など）
- ・町案内へのニーズに応える。（何組もまとめて案内はできないが、1組ごとなら可能）

この解決方法として町案内にガイドボランティア方式を検討する。この際には1,000円程度の必要経費は請求しても良いのではないかと。

- ・町案内と物件案内は分ける。（今回は4週連続で土日を含む開催であったので、町案内と物件案内を兼ねたことで地元不動産事業者の負担が大きくなった）
- ・物件案内で内覧を希望する場合は参加が決まった段階で事前に申し込む方法を検討する。
- ・先輩移住者との交流会の評価が高かったが、これは移住の経験談が直接聞けるからであり、お試し移住の必須事業とする必要がある。
- ・宿泊後のクリーニング等の作業負担が大きいのでクリーニング代等の実費は請求する。

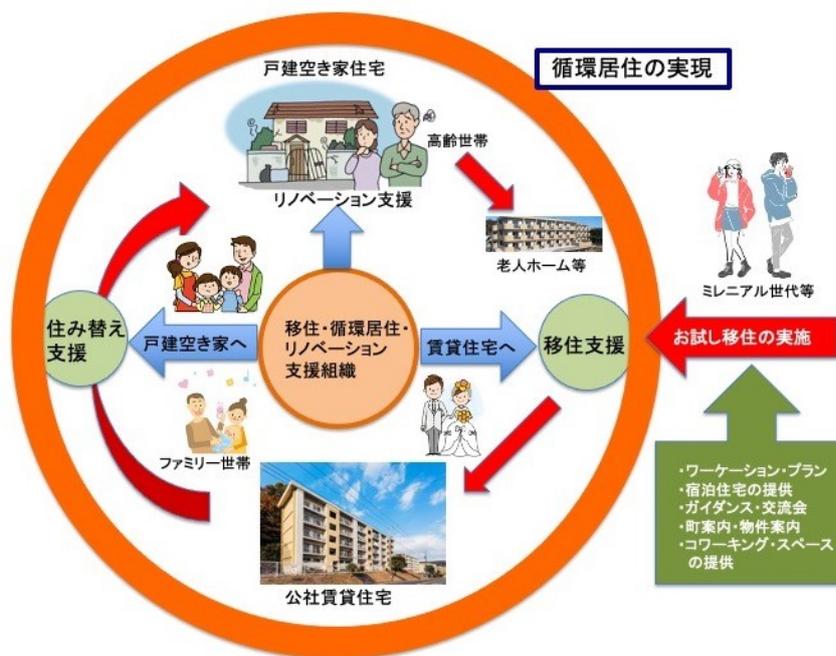
4. 今後の展開

今回のお試し移住の取組を通じて、「お試し移住の基本的な仕組みが作れたこと」、「国の補助を受けて提供住宅（宿泊施設）に備えるべき備品等が整備できたこと」、「神奈川県住宅供給公社、二宮町、先輩移住者、移住支援サイト運営者、不動産事業者等と移住支援のための協働体制を構築できたこと」などによって、様々な課題はあるものの今後の継続的な取組に向けて大きな足掛かりができたと考えている。

今後の展開に向けて検討したいことは主に次のとおりである。

- ・お試し移住を今回のような短期集中型の取組ではなく、例えば、毎月1回といった継続的な取組とし、二宮団地で行なっている「団地ツアー」や「お食事会議」等の取組と連動させる。
- ・提供住宅（宿泊施設）を公社住宅はもとより、民間の戸建住宅の空き家を活用したゲストハウスにまで広げることを検討する。
- ・お試し移住をモデル事業にとどまらず、受益者負担も含めた自立的な事業に育てる。
- ・お試し移住の取組を、地元関係者を連結する中核的な事業として位置付け、今回構築できた地元関係者との協働体制をより一層強化する。
- ・この協働体制に今後は地元金融機関等も加え、移住・循環居住・リノベーション支援組織に発展させることを検討する。

図2 地域空き家等循環再生事業の検討スキーム



■事業主体概要・担当者名			
設立時期	2016年5月		
代表者名	岡村 昭寿		
連絡先担当者名	廣上 正市		
連絡先	住所	〒259-0133	神奈川県中郡二宮町百合ヶ丘 1-9-14
	電話	080-3209-4669	
ホームページ	https://saisei.nino-community-info.com		